

# 秀友新聞

責任者 長橋大 発行

第2号 発行日 平成29年1月10日

## 藤原理事長が 表彰されました!

平成二十八年十一月一日(火)、藤原理事長が、日本医師会委員会委員として十年にわたり、卓越した学識と経験をもって本会の施策に協力され、会員の知識向上に貢献されたということで、日本医師会の横倉会長より表彰されました。

### 藤原理事長 北海道新聞記事

平成二十八年十一月二十六日(水)の北海道新聞朝刊に「高齢者の交通事故どう防ぐ」の見出しで、左記の通り藤原理事長の記事が掲載されました。ぜひ、皆様にご紹介させて頂きたいと思っております。

### 認知症サポート医 藤原 秀俊さん



ふじわら・ひでとし 後志管内余市町出身。札幌医科大学。専門は脳神経外科。医師法人秀友会(札幌市)理事長で、北海道医師会副会長を務める。認知症の診療に長く携わり、かかりつけ医に認知症に関する助言などを求める「認知症サポート医」でもある。65歳。



表彰状写真

## 白崎副院長講演会

平成二十八年十一月十四日(水)に白崎副院長が稲穂会館にて医療講演会をされ、約五十名と多くの方がいらつしやうておりました。講演会の内容を白崎副院長に書いて頂きましたので、皆様に紹介させて頂きたいと思っております。

### 「これで痛みが消える」

「これに痛みが消える」とか、足首をねんざして痛い、という痛みにはきつと皆さんの関心は薄いでしょう。それは、急に来る痛みで痛みの原因がはっきりしているから。でも、腰が痛い、手や足がしびれる、肩こりがひどい、などの慢性の痛みには興味があるはず。それは、原因がはっきりしないからなのです。

骨の変形があればそれを治す。認知症の初期段階で患者本人が免許返納を相談してくれる場合は自覚があるため、それほど問題にはなりません。対応に困るのはいずれ認知症の高齢者です。医師が運転を止めるよう説得しても聞き入れてくれない、やむを得ず家族が強制的に車を売却してしまう場合もあります。

療してみたら良くなる? 慢性の痛みは神経そのものが病んでいることが多いのです。神経は電気のコードのようなもので、コードの表面のビニールが劣化すると電気がショートすると同じような理屈で、軽い刺激が増幅されて強い痛みに変化します。慢性の痛みには痛みの悪循環が存在します。痛みがでるとそれによって痛い場所の血の巡りが悪くなり、そこに痛みを起す物質が溜まるようになってさらに痛みが強くなるという悪循環です。その悪循環を断ち切る痛みは一気に軽くなる、それが神経ブロックの効果です。



稲穂会館講演会

をゆつくりと侵食していくのが病気の根源です。それで強烈な神経痛が起る。その二次的な病状として水ぶくれが神経の走行に沿って現れる、というのが実態なのです。だから、神経痛を残さない治療をいかに早いうちに始めるかが、死ぬまで痛い帯状疱疹後神経痛にならないための決め手となります。ここにも痛みの悪循環が存在し、神経ブロックによって痛みを初期のうちに止めてしまうことで、最良の治療効果を得ることができるといえます。



土屋看護部長と保育士さんと子供たち

## 免許返納 早めに意識を

月に40〜50人の認知症患者を診察していますが、車の運転に不安を抱く人は多く、高齢ドライバーの問題は深刻だと感じています。70歳を過ぎても認知機能は徐々に低下するので、免許更新時の認知機能検査が義務付けられるのは悪いことではないと思います。認知症の初期段階で患者本人が免許返納を相談してくれる場合は自覚があるため、それほど問題にはなりません。対応に困るのはいずれ認知症の高齢者です。医師が運転を止めるよう説得しても聞き入れてくれない、やむを得ず家族が強制的に車を売却してしまう場合もあります。

行を早める可能性もあります。ブラインドを傷つけないよう、本人に判断力があるうちに少しずつ説得する配慮が必要です。認知症は早い段階から予防や治療を行うことが大切で、日常的に診察する「かかりつけ医」の役割が非常に大きいのです。厚生労働省や日本医師会が近年、認知症が専門ではない内科などのかかりつけ医への研修を進めている。こうした取り組みは今後も広がっていくべきです。

化され、医師の診断を義務付けの対象を拡大することについて、道内の医師から「専門医がいない現状では十分に対応できない」と不安の声も上がっています。認知症の症状があっても運転には支障のないケースもあるため、診断結果が患者の免許取り消しにもつながります。

ひとたび事故を起こせば他人を傷つけ、賠償責任を負う上、家族も大変な思いをします。認知症は今後も増えていくとみられる中、高齢者は早めに免許を自主返納することを意識し、行政は早いうちから十分な診療を受けられる体制の構築などを急ぐ必要があります。

をゆつくりと侵食していくのが病気の根源です。それで強烈な神経痛が起る。その二次的な病状として水ぶくれが神経の走行に沿って現れる、というのが実態なのです。だから、神経痛を残さない治療をいかに早いうちに始めるかが、死ぬまで痛い帯状疱疹後神経痛にならないための決め手となります。ここにも痛みの悪循環が存在し、神経ブロックによって痛みを初期のうちに止めてしまうことで、最良の治療効果を得ることができるといえます。

北海道新聞12月26日掲載

## 秀友ふじいる教室

- 秀友ふじいる教室も十一月で第三十四回まで終わりました。過去のテーマは先の通りです。資料やお問い合わせなど何かございましたら、お気軽に「あい・ふらつと」の職員までお声がけください。
- 過去のテーマ
  - ・第二十六回「脱水予防」
  - ・第二十七回「身体活動量」
  - ・第二十八回「家庭でできる食中毒予防」
  - ・第二十九回「あれば助かる! 日常生活便利グッズ」
  - ・第三十回「飲んで良いサプリメントについて」
  - ・第三十一回「やる気スイッチを押してみよう」
  - ・第三十二回「脳トレのウン・ホント!」
  - ・第三十三回「インフルエンザについて」
  - ・第三十四回「ジェネリック(後発)医薬品について」
  - ・第三十五回「その、ムセ危ない! ムセと誤嚥性肺炎の関係」
- 二〇一七年は四年です。十二支や干支の考えでは、酉のつく年は南無紫雲に繋がると考えられているそうです。悪いものを取り去って、羽ばたいていける一年にしたいものです。

(報道センター 大城道雄)